

2022年12月21日

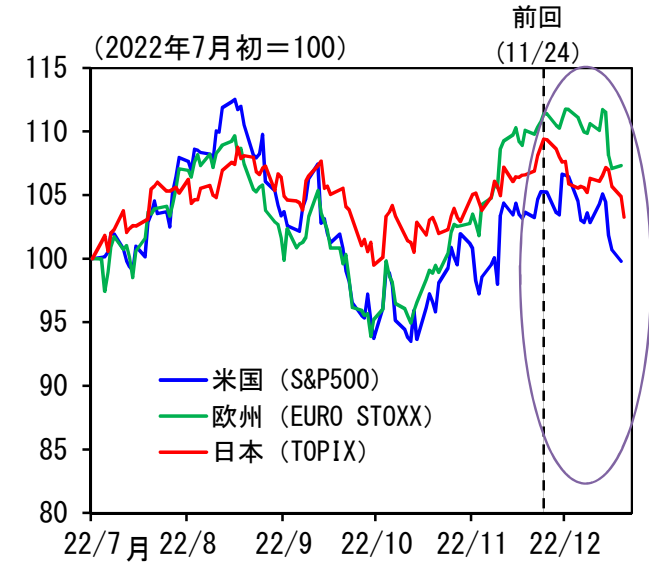
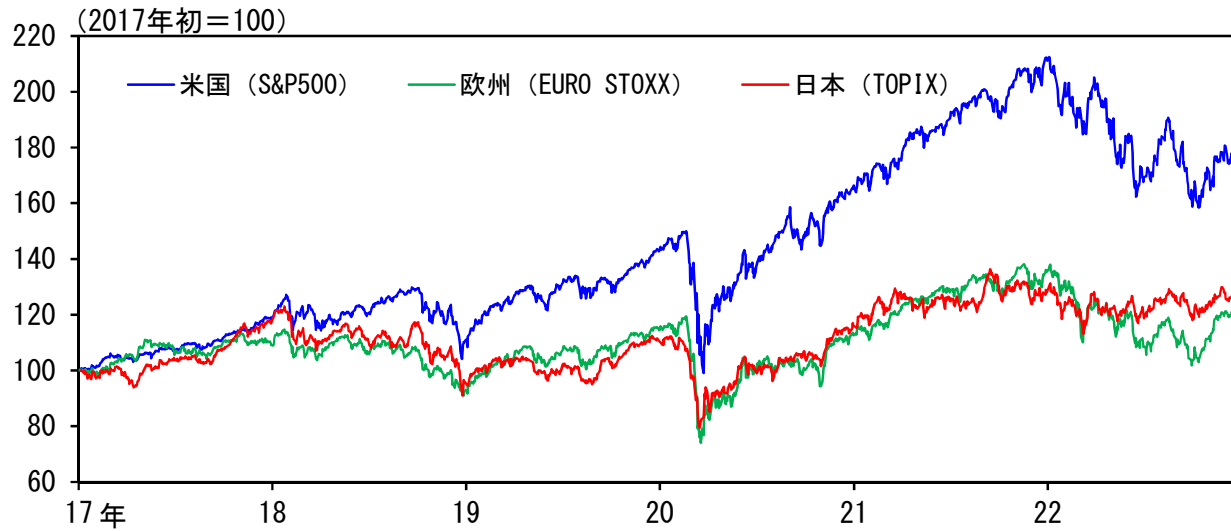
日 本 銀 行

月例経済報告等に関する 関係閣僚会議・資料

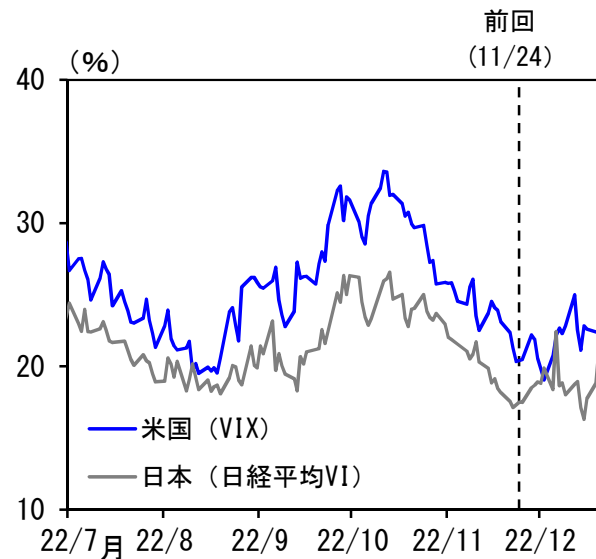
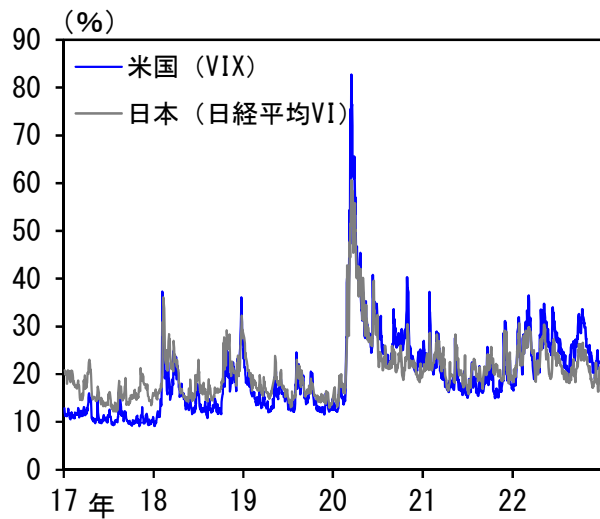
—— 最近の金融市場の動き ——

1. 株価

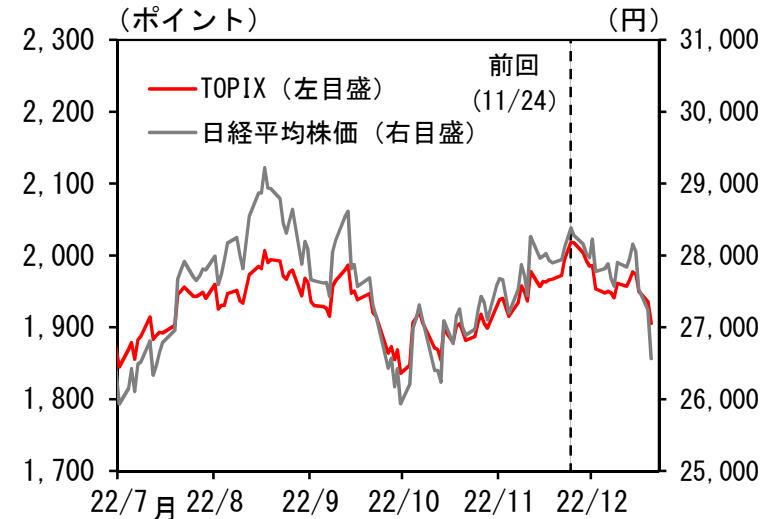
(1) 日米欧の株価



(2) 日米株価のボラティリティ



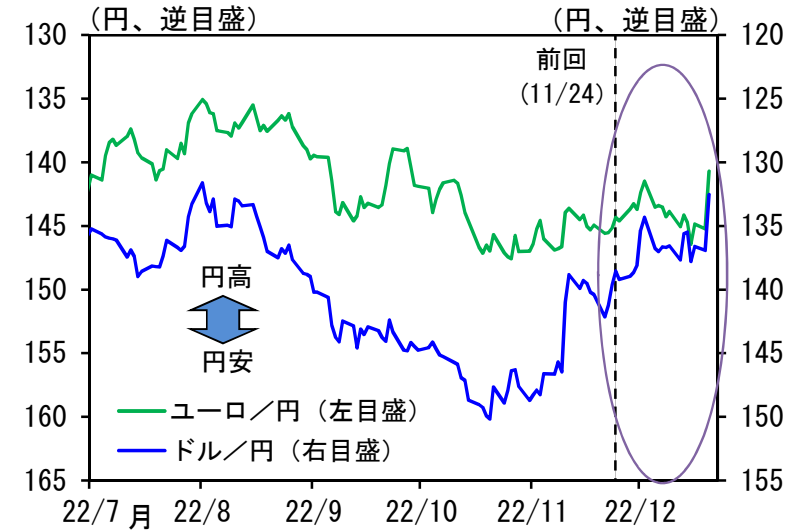
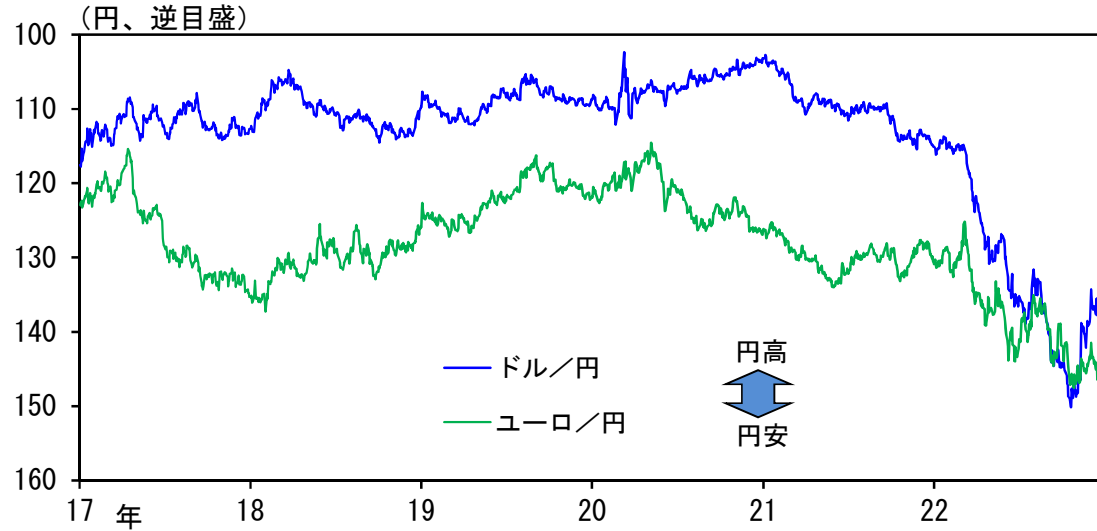
(3) 日経平均株価とTOPIX



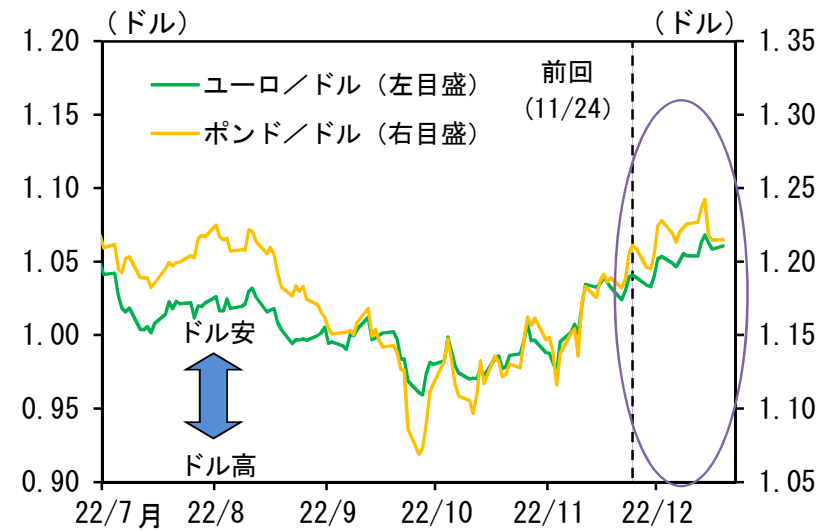
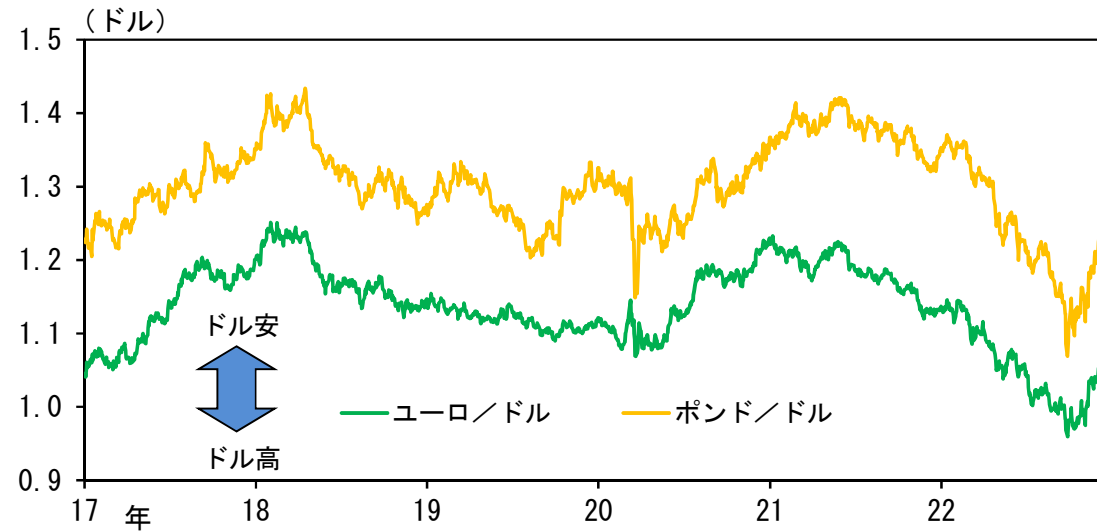
(出所) Bloomberg

2. 為替相場

(1) ドル／円、ユーロ／円相場



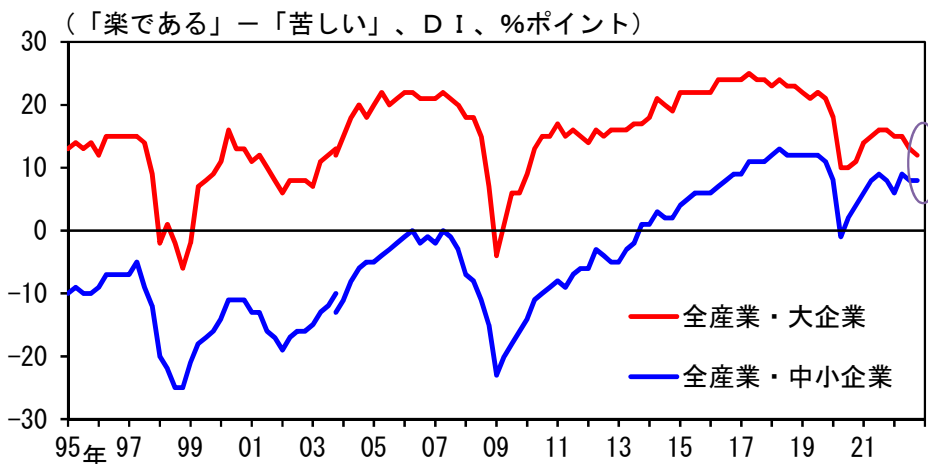
(2) ユーロ／ドル、ポンド／ドル相場



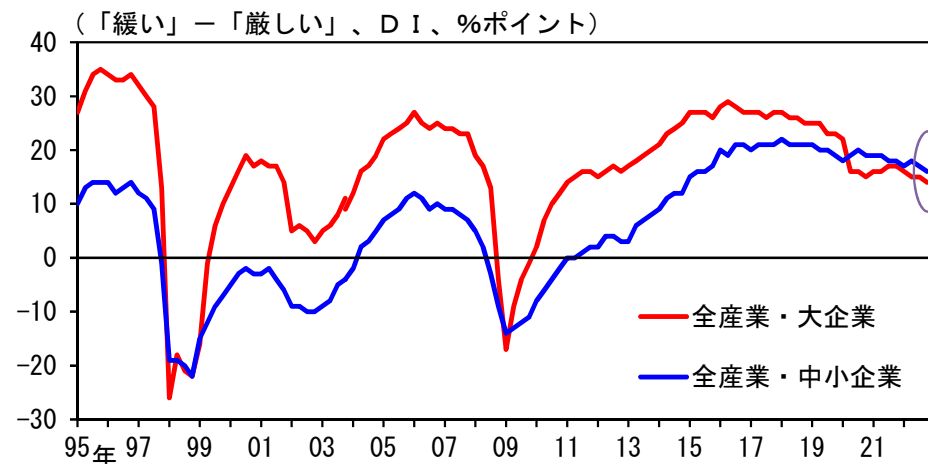
(出所) Bloomberg

3. 国内の金融環境

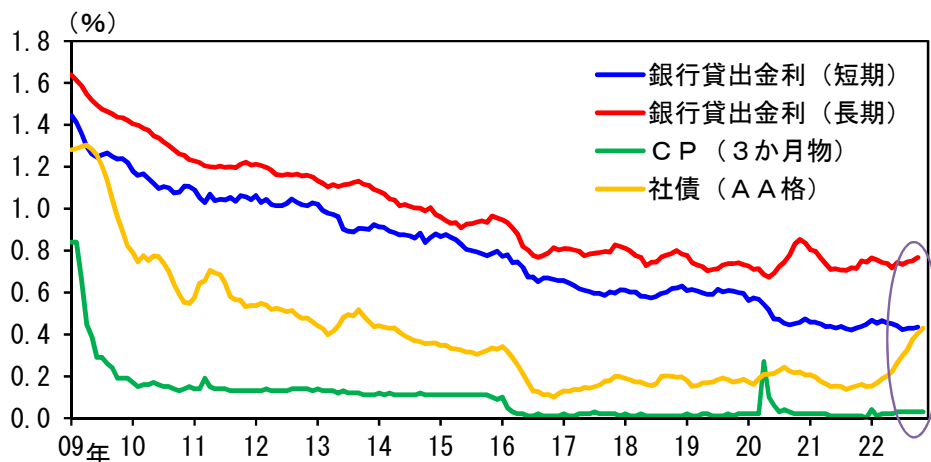
(1) 企業の資金繰り



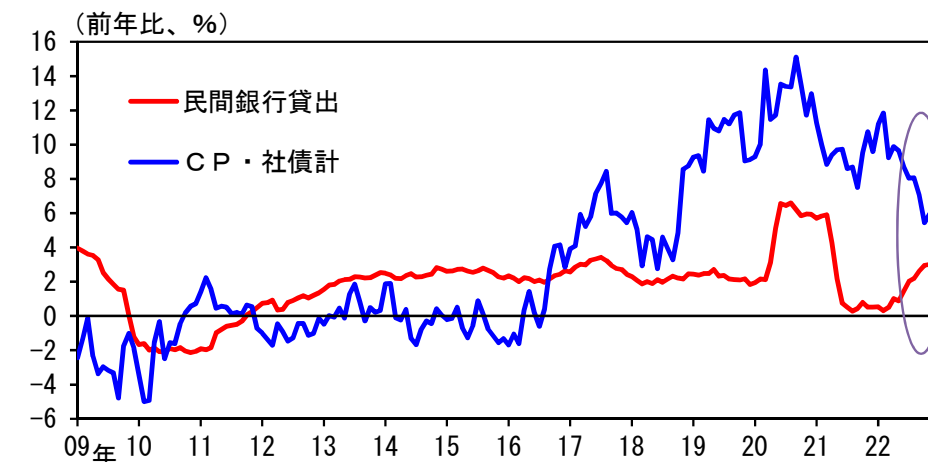
(2) 企業からみた金融機関の貸出態度



(3) 資金調達コスト



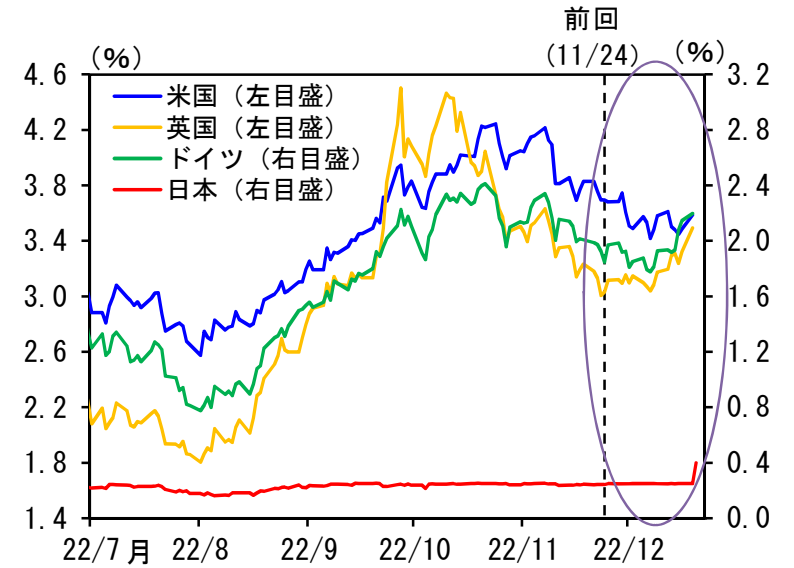
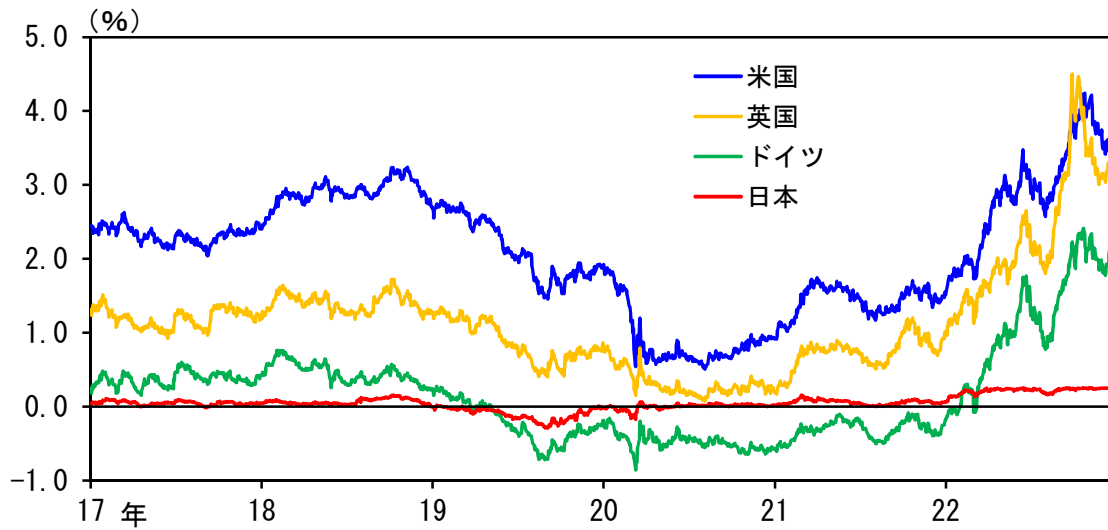
(4) 貸出残高とCP・社債発行残高



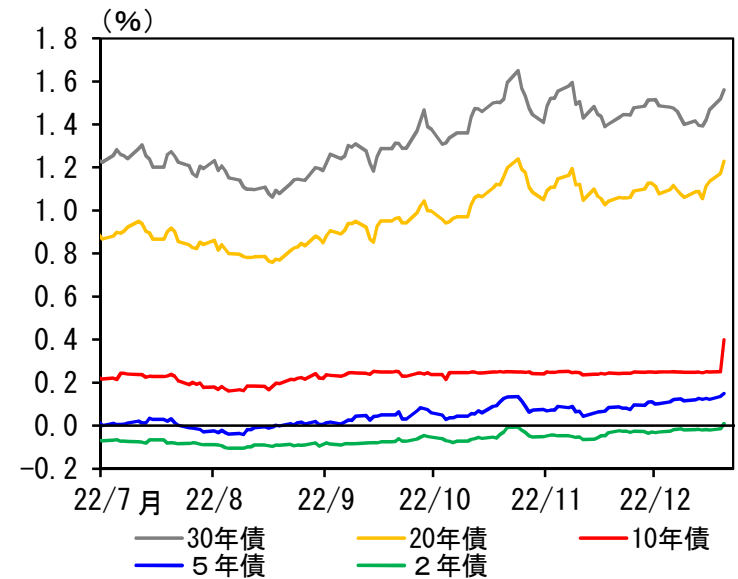
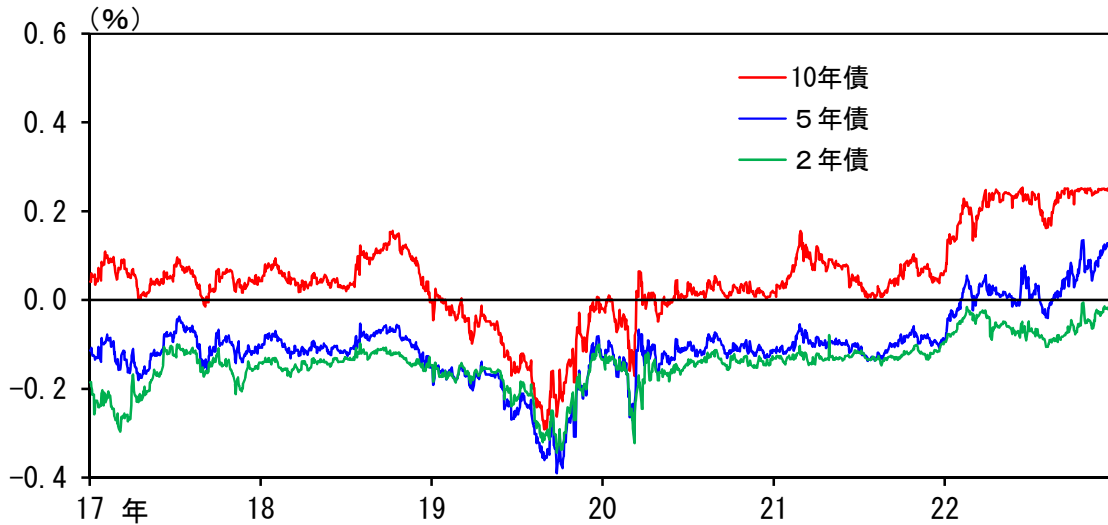
- (注) 1. (1) は、短観の資金繰り判断DI。2003/12月調査には、調査の枠組み見直しによる不連続が生じている。
 2. (2) は、短観の金融機関の貸出態度判断DI。2003/12月調査には、調査の枠組み見直しによる不連続が生じている。
 3. (3) のCP発行利回りの2009/9月以前はa-1格以上、2009/10月以降はa-1格。社債発行利回りは、単純平均値、起債日ベース。対象は国内公募社債で、銀行や証券会社などの発行分は除く。銀行貸出金利、社債発行利回りは、後方6か月移動平均。
 4. (4) の民間銀行貸出は平残前年比、CP・社債計は末残前年比。民間銀行貸出には、企業向けのほか、個人向け、地方公共団体向け等も含む。
 (出所) 日本銀行、Bloomberg、証券保管振替機構、キャピタル・アイ、アイ・エヌ情報センター

4. 債券市場

(1) 主要国の長期金利



(2) 日本国債利回り (年限別)



(出所) Bloomberg

5. イールドカーブ・コントロール（YCC）の運用の見直し

海外市場のボラティリティ上昇の影響

わが国債券市場の機能度の低下

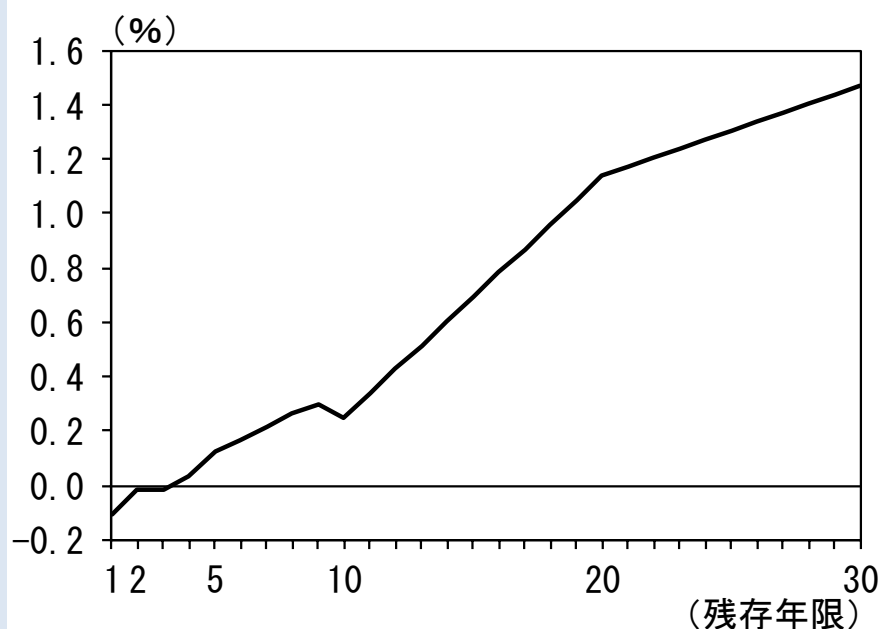
各年限間の金利の相対関係

現物と先物の裁定

金融環境に悪影響を及ぼすおそれ

国債金利は、社債や貸出等の金利の基準となるもの

国債のイールドカーブ（12月決定会合前）



(出所) Bloomberg

日本銀行の対応

YCCの運用

より円滑にイールドカーブ全体の形成を促していく

国債買入れ額の大幅増額: 月間7.3兆円⇒9兆円程度

長期金利の変動幅拡大: ±0.25%程度⇒±0.5%程度

各年限における機動的な対応:

10年物の指値オペを「0.5%」で毎営業日実施

各年限で更なる買入れ増額や指値オペを機動的に実施

社債の発行環境に十分配慮して、社債買入れ残高の調整を進める

YCCを起点とする**金融緩和の効果**が、企業金融などを通じて、**より円滑に波及**

金融緩和の持続性を高めることで、「物価安定の目標」の実現を目指していく